

1 目的

人権尊重の精神に基づき、人権感覚を磨き、人の痛みの分かる豊かな感性を培うと共に、人権が尊重される学校づくりに向けた具体的な態度や行動がとれる児童の育成を目指すことを目的とします。

2 内容

(1) hyper-Q-U検査アセスメントに関わる現職教育研修

年間2回 hyper-Q-U検査を行い、その結果を基に研修会で講師の奥山桂子先生から、学級や個々の児童のアセスメントの仕方について学びました。その後、学級担任がクラスの児童一人一人と教育相談を行いました。

(2) ハンセン病の学習（6年生対象）

講師に小笠原英司先生を招き、ハンセン病についての話を聞くことで、差別や偏見について考え、人権についての理解を深めると共に、人権意識の向上を図りました。

(3) 授業力向上研修

年間3回、教職員の授業力向上研修を実施しました。講師の中村浩二先生から、授業づくり、評価の仕方、個に応じた学びの在り方などについて教えていただきました。授業での「めあて」の在り方、一人一人の成長の見取り方などを具体的な例や、文科省の資料をもとに丁寧に教えていただきました。研修を通して学んだことを生かし、児童が「もっと学びたい」「次は何をするの」と前向きになる授業づくりを目指しました。



【授業力向上研修】

(4) 「温かい人間関係づくり」を目指した学級経営研修

毎月1回、全学級「人権タイム」を設定しています。ソーシャルスキルトレーニング等を通して、よりよい人間関係を築く力を身に付けるための学習活動を行いました。年間2回、学級経営研修で講師の奥村桂子先生から教材研究の仕方について、実際に先生が授業をしてくださり、それを見て具体的にご示唆をいただきました。教えていただいたことを活用しながら、学級の状態に合わせて継続した取組を行うことで、一人一人が居場所を感じられる学級づくりに取り組みました。



【学級経営研修】

(5) 学級力向上プロジェクト

安心して楽しく過ごせる学級をつくるために、学級力のいろはを学びました。その中でも、「学級の問題点を可視化すること」、「話し合いで出てきた意見を

否定しないこと」など、東小学校でも取り組みやすい手立てを教えていただきました。子どもたちが自分たちで見て、考え、よりよい学級を作っていく行動ができるようになるためのよい学びができました。

(6) 発達障害等に関する研修

講師に海南病院の岡和代先生をお招きして実施しました。発達障害等の特性のある子どもの見え方や感じ方や実態把握の仕方と配慮の組み立て方など、疑似体験や保護者との合意形成の仕方等の具体例などを交え、分かりやすく教えていただき、理解を深めました。

(7) あいさつ運動のロゴ入りティッシュの配付

「あいさつが飛び交う地域」を目指し、児童会で決めたテーマ「あいさつは笑顔広がる合言葉」を印刷したティッシュを7月のあいさつ集会などで配付しました。



【ロゴ入りティッシュ】

3 評価

(1) hyper-Q-U検査アセスメントに関わる現職教育研修

hyper-Q-U検査の結果から、学級や児童の実態を客観的に把握・分析した上で教育相談をすることで、個々の抱える悩みに応じた話や助言をすることができました。

(2) ハンセン病の学習（6年生対象）

小笠原博士の偉業について学ぶと共に、正しい知識をもたないことからくる差別について、考える機会をもちました。そして、誰もが幸せに生きる権利をもち、それを侵害することは許されないという態度を養いました。

(3) 授業力向上研修

研修を通して、教職員が授業を行うにあたり、主体的な学びのために「何を」「どのように」工夫していくのかを考え、実践していくことが大切であることを共有することができました。

(4) 学級経営研修

人権タイムにおいては、よりよい人間関係を築く技術を構成的グループエンカウンターを用いて実践的に学ぶことができました。また、人権タイムでの学びを踏まえて、学級で教師と児童、児童相互の人間関係づくりを段階的に進め、クラス全員とかかわりをもたせることについて考えを深めることができました。

(5) 学級力向上プロジェクト

「学級力向上プロジェクト」の研修を通して、子どもたちが学級の問題に気づき、学級のために主体的に行動していくための手法を学び、学級力の向上を図りました。

(6) 発達障害等に関する研修

今、必要とされている発達障害に関する講演をしていただき、「見えている世界の違い」について考えることができました。十分な理解がないまま経験だけに頼って対応していた教職員にとって、配慮が必要な子への指導・支援が児

童の困り感や特性に応じるものとなり、見識を深める有意義な学びとなりました。

(7) あいさつ運動のロゴ入りティッシュの配付

あいさつ集会やあいさつ運動のときに全校児童へロゴ入りティッシュを配付しました。その他にも、あいさつと関連付けて適宜配付しました。また、学校訪問や学校運営協議会など、来校された方や地域の方にも配付し、学校の取組を紹介しました。

4 課題

自他のよさに気付き、そのよさが自他のために発揮されるように知識のみにとどまらず、日常生活の中で、継続的・実践的な態度や行動として根付くように環境を整え、人権教育を進めていくことが課題です。

1 目的

専門的な知識・技術をもつ講師を招いて、外部人材の教育力を取り入れた教育活動を推進します。

2 内 容

(1) 刷毛の先生（4年生対象）

地域の伝統産業である刷毛づくりについて、実際に携わる方からお話を聞きました。実物を見せていただきながら工程やそれにかかる努力や工夫について学びました。

(2) 特別支援学級 生活単元講師

自立活動の授業において、生活面で必要とされる技能の習得を図りました。音楽療法では、音楽療法士の先生を講師に招き、音楽を通して自分を表現し、人とコミュニケーションの取り方について学びました。

(3) 書き方教室（1・2年生対象）

書写コンサルタントの先生を講師にお招きし、1・2年生で書写教室を行いました。

楽しみながら、字を書くことのよさや書き方のコツ、鉛筆の使い方などを学びました。



【書き方教室】

(4) そろばん教室（3年）

そろばん講師の先生をお招きし、そろばんの指使いに気を付けたり、速さを意識したりしながら、夢中になって取り組み、体験を通してそろばんの楽しさを学びました。



【そろばん教室】

(5) 縄跳び教室（全学年）

日本縄跳びプロジェクトから4名の講師をお招きし、縄の持ち方、ジャンプの仕方、跳び方のコツを教えてもらい、様々な技にチャレンジしました。専門の方に教えていただいたことで、納得しながら取り組みました。

3 評価

(1) 刷毛の先生（4年生対象）

刷毛づくりやそれに携わる人たちの思いを知り、自分の住む地域の特色やよさについて考えを深めることができました。最後には実物を間近で見せていただいたことで、より関心を高めました。

(2) 特別支援学級 生活単元講師

級友と一緒に楽器を鳴らしたり、音楽に合わせて踊ったりする中で、コミュニケーションの取り方や生活に必要な技能について学ぶことができました。

(3) 書き方教室（1・2年生対象）

大きな鉛筆を使ったり、間違い探しのクイズをしたりすることで書写について楽しく学習することができました。美しく字を書くコツ、文字の成り立ちなどをわかりやすく学び、低学年にとって文字への意識を高めるよい機会になりました。

(4) そろばん教室（3年）

そろばんについて知り、そろばんの活用の仕方について体験を通して学ぶことで、そろばんの楽しさに触れ、主体的に学習に取り組む一助となりました。

(5) 縄跳び教室（全学年）

縄跳び教室の講師から、縄の基本的な使い方、縄を使った新たな運動などを教えていただいたことにより、縄跳びの世界が広がりました。学校だけでなく、家庭でも取り組むようになり、生涯学習に結びつける機会となりました。

4 課題

専門的な知識や経験に基づいた講師の方のお話や講習は説得力があり、児童・職員の学びにつながりました。本校の児童に必要な専門的な知識と技能をもった方々をさらに発掘し、地域の方をどのように学校教育へ参加していただくのかが今後の課題です。

1 目的

「ペア学年でふれあい活動」を通して、異学年の交流の活性化を図り、仲間意識を高めます。その活動の中で、助け合い、認め合い、思いやり、相手への感謝が養われ、児童の人権が尊重される学校づくりに向けて具体的な態度や行動がとれる実践力を、養うことを目的とします。

2 内容

「ペア学年ふれあい活動」では、1・6年生、2・5年生、3・4年生がペアとなり、普段はなかなか一緒に遊ぶ機会のない、異学年で交流しました。上級生は、下級生の子のお世話をする、教えてあげる、よい機会となりました。下級生は上級生に教えてもらいながら、楽しい時間を過ごしました。



【ふれあい活動】

3 評価

「ペア学年ふれあい活動」の内容やルールを工夫し、休み時間に実施することができました。また、内容やルールを決めるにあたり、児童が主体的に計画・実施することで、相手の立場を思いやり、助け合いながら、学年の垣根をこえて交流を深める姿が見られました。

4 課題

今後、更なる「ペア学年ふれあい活動」の発展に向けて、人権意識に基づく他者の立場を思いやって立案・計画を進めていく力、協力して活動しようとする態度を養うのみならず、活動場所や道具などのソフト面での充実を図っていくことも課題です。